

ありがとう

気仙沼・鹿折 二年 菊田 琉美菜

(現四年)

わたしのすんでいた家は、もとはま町にありました。三月十一日金曜日。わたしは、一人で学校がえりの道を歩いていました。その日は、学校にのこってべん強してから帰ったので、一人で帰っていいました。とつぜん、地しんがきました。前の日の地しんよりも、ずっと大きくて、ぐらぐらゆれ、わたしはこわくなってしゃがみましました。

バキツバキツ、ガシヤガシヤン。

すごい音がしたので、まわりを見ると、電しんばしらがぐらぐらゆれて、たおれそうになっていました。どこかの家のガラスもわれて、とびちっています。電しんばしらの下の道ろが、ひびわれて、茶色い水がばあつと上の方にわき出ているを見ました。

(どうしよう。この地しん、すごく大きい。)

しゃがみながらゆれるのがいつおわるのかまっています。でも、なかなか、止まりません。こわかったけど、早くおうちへ帰りたい。少しくゆれるのが小さくなったときに走っていました。とちゆうでなん回もゆれたので、しゃがんだり、走ったりをくりかえしながら、帰りました。家につくと、じいじとばあばがいました。またゆれがとまらなかったの、こわくて、ランドセルをおいてこたつにもぐりました。

ばあばは、びよう気で足がわるくて、車いすにのっていました。じいじは、車のうんてんができません。となりにすむ、わたべさんたちが、たすけに来てくれたとき、ばあばは、トイレに入っていました。

「るみなだけ、先ににげろ。ランドセルばもってげよ。」

じいじは、わたしだけを先ににがしてくれました。わたべさんたちの松岩のしんせきの家にひなんしました。パパやママ、じいじやばあばともれんらくが、とれず、かなしい日がつづきました。わたべさんたちは、みんなとつてもやさしくて、わたしにごはんを食べ

させてくれ、いつしよにあそんでくれました。でも、夜になると家ぞくに会いたくなりました。へみんなは、どうしているかな。パパとママ、たいがやこはく、じいじとばあばは、だいじょうぶかな。いつになったら会えるんだろう。)

三日目の夜は、がまんができなくなつて、ないてしまいました。しばらくして、ママたちがわたしをむかえにきました。ママとパパにあえたとき、本当にうれしかったです。ママは、ないていました。そのあと、ママのしんせきの家にいつしよに帰りました。そこで、弟のたいがと妹のこはくにもあえました。

でも、じいじとばあばは、そこにはいませんでした。まだ、二人は見つからないことを知りました。

パパとママは、毎日、毎日、ひなんじよや、したいあんちじよへ通つて二人をさがしました。

一か月がすぎ、何日かしたあとで、じいじとばあばが見つかりました。

ばあばは、家の近くで見つかり、じいじも少しはなれたところで見つかりました。

ばあばは、びよう気で足がわるくてあまり歩けなかつたけど、いつもにこにこして、みんなをわらわせてくれる人でした。

じいじはりょうりが上手で、よくホットケーキやあさりバターを作つてくれました。つりにもつれて行つてくれました。じいじは、魚をつつても、帰りにはにがしてあげる心のやさしい人でした。

本当は、しんじやったなんて思いたくないです。また、会いたいです。また、みんなでココスへ行つたり、あつて話がつたいです。

天国のじいじとばあばへ

お元気ですか。るみなはとっても元気だよ。今は、かせつじゅうたくにすんでいるんだよ。家ぞくもみんな元気だよ。じいじが、さい後に、

「ランドセル、もってげよ。」

と言ってくれたから、ランドセルはつなみにながされなかったよ。
このランドセルは、ずっと大切につかうからね。

学校のべん強もがんばってるよ。家では、パパやママがいないときにも、ごはんを作ってたいがやこはくに食べさせているよ。けんかをすることもあるけど、なかよくあそんでいるよ。さみしくなるときもあったけど、もうだいじょうぶだよ。二人のことはずっとわかれないからね。大人になったらやさしい人になれるようにがんばります。天国から見まもっていてくださいね。じいじ、ばあばありがとう。

出典：作文宮城60号特別編「あの子どもたち」―2011・3・1
編 一 東日本大震災記録集―宮城県連合小学校教育研究会国語研究会